

## ヒコナミザトウムシ

岡山県：留意

ザトウムシ目

*Nelima nigricoxa* Sato & Suzuki

環境省：該当なし

カワザトウムシ科

## 選定理由

旭川を境界として、染色体数が $2n=16-20$ の幅で分化。岡山県固有の核型（岡山市建部町）や交雑帯（蒜山高原）もみられる。

## 存続を脅かす要因

森林伐採

## 分布状況

千葉県以西の本州、四国、九州（日本固有種）。

県内に広域に生息するが、中国自動車道以南では生息地が少ない。

## 生息情報

体長雄6mm、雌9mm程度。最普通種。卵越冬で幼体は5月頃孵化、8月上旬に成体となり11月までみられる。染色体数が旭川を境界として西から東に $2n=20$ から $2n=16$ に変化。蒜山周辺には大山・蒜山に固有の $2n=18$ の集団があり、蒜山高原で $2n=20/18/16$ の連続的移行が確認できる。また、岡山市建部町の旭川の西側には、この地域に固有の $2n=18$ の集団（蒜山の集団とは核型が異なる）がみられる。

## 特記事項

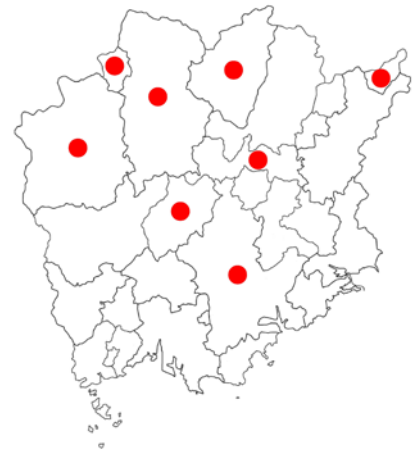
蒜山高原にみられる染色体交雑帯（ $2n=16-20$ ）と、岡山市建部町の旭川の西方にみられる $2n=18$ （この地域に固有の核型）の集団は貴重。とくに後者は生息範囲が狭く要注意。

文献番号 145, 148

（鶴崎展巨）



撮影：鶴崎 展巨



## サトウナミザトウムシ

岡山県：留意

ザトウムシ目

*Nelima satoi* Suzuki

環境省：該当なし

カワザトウムシ科

## 選定理由

恩原高原付近を境界に、染色体数が西から東に $2n=14$ から $2n=18$ に変化。恩原高原付近では $2n=16$ の集団もみられる。この移行域は貴重。

## 存続を脅かす要因

森林伐採

## 分布状況

福井県以西の本州、四国、九州。日本固有種。

県内では、県北部一帯に生息する。

## 生息情報

体長5～6mm程度。生息場所は山地溪流沿いの湿った崖地の窪みなど高湿度の暗所に限定される。ヒコナミザトウムシに似るが、体背面がツヤ消しの黒色で、腹部下面が全体に黒ずむのが特徴。卵越冬で幼体は5月上旬頃孵化、ふつう8月下旬以降に成体となる。雄の交尾器形態と染色体数に地理的分化が顕著で、中国地方東部では染色体数が吉井川上流付近を境に東側では $n=18$ 、西側では14となる。鏡野町上斎原付近はこれらの移行帯とみられ染色体数が集団内多型を示し $2n=16$ の集団も見つかる。

文献番号 145

（鶴崎展巨）



撮影：鶴崎 展巨

